

イネカメムシとは

体長 12-13mm の茶褐色のカメムシで、斑点米カメムシ類の一種である。かつて斑点米カメムシ類の主要種であったが、1960 年台以降に国内で発生量が減少。

しかしながら、近年、本種の発生量が増加している。温暖化に加え、経営規模の大規模化や新規需要米の増加により、地域内で作期の異なる品種が栽培されていることが近年の発生量の増加の要因の一つとして考えられている。

(1) 被害

水稻の籾の基部を加害することにより、基部斑点米を生じさせる。また、他の斑点米カメムシ類と異なり、出穂期から登熟初期に籾を加害し、不稔を生じさせる。不稔が生じた稲は、穂が充実せず直立する。

周囲の水稻より出穂が早い圃場の場合は、本種が集中する可能性がある。

(2) 生態

冬は成虫で越冬し、7 月中下旬の水稻の出穂とともに越冬場所から水田に侵入してくると考えられている。

昼間は株元に潜み、夜間に加害する。本虫は、年 1 世代又は年 2 世代である。

他の斑点米カメムシ類と異なり、稲への嗜好性が高く、畦畔や水田周辺のイネ科雑草で確認されることが少ないとされている。



写真 左：成虫、中：5 齢幼虫、右：基部斑点米